

# 学力研の広場

「うまく使えば、時間はいつも十分にある。」

これは、ドイツの文豪、ゲーテの言葉だそうです。確かに、自分の時間の使い方をふり返ると、確かならな...と感じますが、一方で「そうかなあ?」とも感じずにはおれません。働き方改革が叫ばれながら、一方で教師がやらなければならない仕事はあまり減っているようには思えません。どの現場も人手不足で、手を抜けば学級が、学校が荒れていくかもしれないと思うと早く帰ってもいられません。

そして、「どの子ども伸ばす」を実現しようと本気になって取り組めば、時間はどれだけあっても足りないように思えます。子どもの学力の変化をみる国の「経年変化分析調査」(2024年度)の結果が全教科で下がったという報道もありました。子どもたちの学力の基礎を鍛え、どの子ども伸ばすために、限られた時間の中で工夫を凝らしていくしかないのだと思います。

そんな、限られた時間の中で学力をつける工夫を集め、共有し、広げていきたいと思い、特集テーマとしました。ぜひお読みいただき、何か一つでも取り入れていただけたら幸いです。(堀井)

## CONTENTS

### ◇特集 あらゆる時間を活用した学力づくりの工夫◇

あらゆる時間を活用した学力づくりの工夫	根無信行・・・・・・・・・・	2
探せば見つかる、学力づくりの時間と活用テクニック	堀井克也・・・・・・・・・・	4
学力づくりで保護者と連携することを目指して	鈴木基久・・・・・・・・・・	6
あらゆる時間を力に変える	加藤英介・・・・・・・・・・	10
あらゆる時間を活かした学力づくり	岸本ひとみ・・・・・・・・・・	12

### ◇連載◇

「どの子ども伸ばす」を本気で考える 85 「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ	岡本美穂・・・・・・・・・・	14
考える力をつけるための授業の組み立て方② 天気にも左右される単元の授業の組み立て方	荒井賢一・・・・・・・・・・	16
リレー連載 来年度の全国大会講演者新井紀子さんについて①	深澤英雄・・・・・・・・・・	19

学力研・第19期先生のための学校 第2回報告	荒井賢一・・・・・・・・・・	20
------------------------	----------------	----

常任委員長・事務局だより	・・・・・・・・・・	21
学力研カレンダー	・・・・・・・・・・	22



なります。聴いた内容は、クラスで何人か、ペアの相手が代わりにみんなの前で発表して、友だちが読んだ本にも興味を持てるように交流します。

### 【放課後】

放課後の会議まで時間のある日は、宿題を残してでもいいことにしています。勉強が苦手な子ほど、持ち帰っても結局宿題ができなかった、ということがよくあります。残って一緒に見てあげること、苦手意識も減り、宿題の忘れもなくなります。

## 二、学校ぐるみで学力づくりに取り組む時間の捻出のために

### 現任校で、校内研修部会という学力関係の校務分掌に所属しています。子どもたちの学力を伸ばすための手立てを提案する立場にあるわけですが、近年学校も、多忙化、長時間過密労働が言われて久しくなっており、研修にじっくり取り組んでいるわけではありません。その原因の一つに、毎年のように、「新しい取り組み」に着手しようとすることや、「特色」を求められるあまり、学力づくりからは離れた取り組みに、話し合いや時間がかから

れていることがあります。クラスや学年の子どものたちの様子について、授業の進め方について、学年の先生たちでゆっくり話す時間もありません。新しい取り組みの遂行のためには、追加の時間と、人員が必要になります。そうでなければ、今まであった取り組みを何か減らさない限り、「新しい」取り組みを行う枠は生まれません。ところが、そのことに職員のみならずは気づいてはいるのですが、なぜか学校は枠の中にその新しい取り組みとこれまでの取り組みが共存できています。それは先生方一人ひとりの努力と、枠の外にはみ出した時間外の業務を見ないふりから生まれているのです。

授業時間こそ、本来の学力づくりの時間です。学力づくりの時間を他に求めなければならぬことが残念です。そこで、今年度の研修部からの取り組みは、新しい提案をしない提案を行いました。研修部会としての提案は、一つを除いて、全ての校務分掌の提案から出された提案に乗っかる形となっています。

例えば、学力調査テストの分析の結果をもとに学校としての学習計画の提出が求められているのですが、課題のあった「読解力」の向上は、昨年度5年生の先生が行ってきて伸び

が見え始めた「漢字学習」と、教科書の「ことばのたからばこ(光村)」の活用を軸に語彙を増やす取り組み、図書活用推進担当から新しく提案されている「新聞記事の活用」を取り入れることだけを提案しました。算数では、全国的に3割しか正解がなかった分数数直線の読み取りの力を伸ばすために、タブレット学習を減らし、手書き、具体物を中心とした実際の数感覚を養う活動を多くする学習に取り組んでいこうということにしました。これらは主に学力研の実践を参考にしています。学力実践は、すべて教育課程の中で、時間内にも収まるものです。2年前から本校の研究授業のテーマが、「個別最適化と協働的な学習」となっているのですが、実際研究授業で個別最適化の様子を参観、協議するのは難しいので、研究授業は協働的な学習を中心に指導案を作成することで、研究テーマも、実質半分だけで行っています。このように、今月の特集テーマと少しずれてしまっただけかもしれませんが、学校の教員全員が、本来の学力づくりに充てる「時間」を使い、その中で子どもたちを伸ばす手立てを考えたり、話し合ったりできることも、工夫だと思っています。

## 探せば見つかる、学力づくりの時間と活用テクニク

春日井学力研 堀井 克也

### ◎やりたいことは山ほどあるのに…

先日、「先生のための学校」に参加するために大阪へ行ってきました。そこで鈴木基久先生が『多層指導モデルMIM』の話をしていて、「ああ、そうだったそうだった。うちにも五年生にもなつて特殊音節の読み間違いが多い子がいるんだ。指導してあげたいなあ。」と思いました。鈴木先生からMIMの話聞くのは初めてではないので、実は頭の片隅にはあったことなのです。

しかし、忙しい高学年…いつ、どこで、どのように指導してあげればよいのかというと、実現はなかなか難しいのです。たださえ国語の時間は足りておらず、その中で音読や視写の力も鍛えてあげたい。算数でも、計算力はつけてやりたいし、文章問題を解く力も伸ばしてやりたい。指導して、鍛えたら伸びることは分かっているのに、その時間が無いのです。歯がゆいのです。

### ◎時間は作るもの、探すもの

私は毎日コツコツ『今日の一枚』という掲示物を作り、その日にまつわる出来事や有名人、名言などを紹介しています。その掲示物にかつて「何をすることも時間は見つからないだろう。時間が欲しければ自分で作ることだ。」という名言を紹介したことがあります。下校後にちょっと居残り：そんなことができた時代が羨ましい、なんて考えていても仕方がないのです。そこで一日の中に、学力の基礎を鍛えるための時間が無いかと探してみました。すると、探せば見つかるものですね。ありました。

まず、**毎朝の連絡帳を書く時間**です。私のクラスでは、登校してきた子どもたちが始業のチャイムまでに連絡帳を書き写すのですが、ここを「**視写の時間**」として活用することを意識します。下敷きはちゃんと使わせるし、姿勢や鉛筆の持ち方も正して

しっかり書かせます。さらに、「高学年になっても書く文章の半分は平仮名ですから、平仮名をていねいに美しく書けるようになると文章全体がきれいに見えるようになりますよ！」と伝えて、一日に一字ずつ平仮名も書かせます。美しく書くポイントは、

黒板に提示しておきます。(余談ですが、平仮名の書き順を間違えて覚えているような子が、どのクラスにも必ずいることに驚かされます…数字の5なども)連絡帳をチェクする際、お手本通りに書いている子には丸を付け、いい加減に書いている子には声をかけます。地味な取り組みではありますが、コツコツ続けていくと授業のノートや日記の字も少しずつ整っていきます。

### ◎給食の時間

コロナ禍の真っ最中、給食中は黙って食べる「**黙食**」が求められました。みんな机を前に向けたまま、静かに給食を食べていましたが、その様子を見ながら「なんかもったいないな…本来ならみんな楽しんでおしゃべりして、お互いのことを知ったり仲良くなったりする時間なのに…」と残念に思っていました。そしてふと、「そうか、こ

の時間も有効に使えばいいんだ」と気付きました。そこで始めたのが『毎日文章題』です。自作の算数の文章題をスクリーンに投影しておく、子どもたちは自然とそれを読み、考えてくれました。給食を食べ終わり食器を片付ける際に私の方へ来て「先生、答えて、〇〇ですよね？」と答え合わせをしていました。六年生の子達でした。コロナ禍も終わり、楽しい給食の時間が戻ってきましたから、この時と同じようにはしません。ただ、下学年で学習した漢字の問題や、覚えてほしい用語などを黒板に書いておき、「これ、わかる？」と問いかけておきます。すると、給食を食べながら子ども同士で「ねえ…あの漢字、書ける？」とか「ひし形の定義ってなんだっけ？」などと話題にしてくれます。これだけでも良いのですが、このままだと学力的に低位の子に限って何も考えず、問いかけに答えようともしないので、給食を食べ終わったタイミングで「〇〇さん、どう？これ分かる？」と声を掛けたり、黒板に書かせてみたりして、考えたり、時には友達に答えを聞いたりすることを促すようにします。

最近私はずっと気になっているのが、英語です。小学校で教科化されたのに伴い、中学校、特に一年生の英語の内容がとても難しくなっているようです。小学校では歌ったりゲームをしたり、せいぜい書き写したりでよかったものが、中学に入ると急に求められるレベルが上がるので、非常に多くの子どもたちがそこでつまづいています。そのつまづきを少しでも軽減してやりたいと思い、まずは大小のアルファベットを読める、書けるようになることを求めます。例えば黒板に「p o e」と書いておけば、「p」と「o」って、どっちがどっちだっけ？」と話題になることでしよう。これも、コツコツ続けてどの子どもでもできるを目指します。英語初学者のつまづきの一つに、ローマ字読みから離れられないことがあるのではないかと思えます。「name」が「なめ」としか読めないのです。そこで最近フォニックスの基礎を教えるようにしています。例えば「A」には「ア」と「エイ」の二つの読みがあるということ、そして最後の「e」はほとんどの場合読まないというルールを教えると「name」の読み方も納得してく

れます。こうした知識を伝えた上で、給食の時間に黒板に「table」「cup」「birthday」などのそのまま日常でも使っているカタカナ語英単語を書いておくのです。ちなみにこれまで一番盛り上がったのは「circus」でした。これも「er」や「ir」は「アー」と読むということを教え、「oi」が「ガール」であることを教えた上での出題でした。こうして英語を教えていると、賢いけれど英語の習い事などは特にしてこなかった子どもたちが、心から喜び、安心する様子を目にするようになりました。彼らはちゃんと学びたい、理解したいと思っているのに、授業ではちゃんと教えないからです。

◎ 授業を四十五分間使い切る

意外と盲点なのが、授業時間をしっかりと使い切れているかどうか。校内で色々な教室を回って見ていると、チャイムがなったのに授業がなかなか始まっていないクラスがあります。また、活動から次の活動までの間に、だらっとした何物でもない無駄な時間をはさんでしまうクラスもあります。授業を四十五分間フルに活用することも、大切なのだと再確認しました。

## 学力づくりで保護者と連携することを目指して

鈴木基久

9月から音読チエックを始めた。音読チエックは、子どもの音読を先生が聞く取り組みである。朝の支度時間や休み時間、給食の時間などで音読を聞けるときに行う。音読チエックの取り組みは、学力研の学習会で何度か聞いたことがあったのだが、これまで取り組みがなかった。8月に吉田先生のレポートを聞いたことをきっかけに、始めることにした。積極的に取り組んでいる子は、音読チエックに毎日来ている。教科書にシールを貼るようにしているので、シールが増えるのが励みになっているようだ。聞いてみると、予想よりも上手に読めていない子が多いと感じた。今後は、より多くの子が音読チエックに来る雰囲気を作り、音読のレベルを上げたいと考えている。

学力づくりの工夫として、私が取り組んでいることを紹介したい。

### ①週末の家庭学習情報

コロナ禍で休校が明けた頃、児童に「グーグルアカウンツが与えられたその頃、私は「次に休校になったときに子どもへの指導がオンラインでできないと、学校がバッシングされることになる。」と大いに心配していた。そこで、グーグルクラスルームで家庭への連絡を毎週末行うことで、学校も保護者もオンラインでのやりとり慣れることができるのではないかと考え、週末の家庭学習情報を配信することを始めた。その後、保護者向けの連絡をするための「さら連絡網」が導入されたので、こちらで同様の配信を続けた。

私がこれまで勤務してきた5つの小学校では、学級だよりを発行していなかった。「学級だよりを発行したい。」と言っても、誰も出していないからという理由で認められない可能性が高かったと思う。でも、担任から保護者に情報を発信することは、保護者に担任の考えを理解してもらうために必要であるし、知ってもらうことが担任への信頼につながることも考えていた。そこで緊急時に対応するための練習という理由で、学級通信に変わる「週末の家庭学習情報」を出すことにこだわって続けてきた。年度末には、毎年保護者にアンケートを取り、週末の家庭学習情報がどうだったかを聞いた。毎年8割から9割の保護者が良かったと回答した。その実績をもとに、現在の勤務校に異動したときも管理職や同僚の理解を得て、現在も情報を配信することができている。私が作成したものに手直しを加えて、同じ学年の他の

学級も配信している。どんな内容なのか4月と9月のものを紹介する。

4月18日(金) 2年1組

週末の家庭学習ガイド(1回目)

子どもたちが元気に楽しく学校に通えるように、保護者の皆さんの協力をいただきながら子どもたちをサポートしていきたいと思えます。家庭学習が充実したものになるように、週末にさくら連絡網で授業の様子や家庭学習のポイント、テストの予定などをお知らせしていきます。

2年生になって10日が経ちました。新しいクラスにも少しずつ慣れてきたように感じます。生活科では、校庭や川の堤防で春を探しました。凶鑑を見ながら草や花、虫の名前を調べました。モンシロチョウやアゲハチョウ、テントウムシを見つけました。カラスノエンドウをたくさん集めた子、ヨモギが食べられることに興味をもった子もいました。

国語と算数では、1年生の復習と

してひらがなとかたかなの50音表や120までの数唱えをしました。文字がすらすら書けないと板書をノートに写すことが難しくなります。今後も基礎基本が身に付くように継続して取り組んでいきます。

9月12日(金) 家庭学習ガイド

新体力テストが10月に行われます。体育の授業では、握力、上体起こし(腹筋)、長座体前屈(柔軟運動)、反復横跳び、ボール投げなどの練習をしています。来週から足あとカードに「体力アップ」の欄を作りました。握力、腹筋、柔軟を毎日行うと記録が伸びると思います。

新体力テストは、8種類の合計点でA～Eの判定が出ます。得点表を配付しましたので、参考にしていただけならと思います。特に、ソフトボール投げは、少し練習するだけで投げ方が改善されることが多いです。週末に親子でキャッチボールするのをおすすめです。

ひらがな50音表が2分以内、かたかな50音表が2分半以内で書けるように、ひらがな・かたかなを来週の宿題とします。合格できるように練習しましょう。

テスト情報

9月16日(火) 算数「水のかさ」プリントで復習しておきましょう。

## ②懇談会

コロナ禍で参観会や懇談会ができない時期があった。そのため、懇談会を経験していない保護者や参加したことのない保護者が多くなってしまう。コロナ禍が終わり、懇談会が再開しても、懇談会の参加者が少ないことが多かったように思う。また、学校側も同様で懇談会を経験していない若手教員がいて、懇談会の進め方や内容について継承されていない面があったように思う。

個別面談をしているから、懇談会はなくてもよいという考えについて、皆さんはどう考えるだろうか。私は

懇談会には個別面談にはないよさがあると思う。それは、懇談会は、学校と保護者が子育てや学力づくりで連携できる貴重な場であり、保護者間のネットワークを作るきっかけの場であると考えられるようになったからだ。よくある子ども同士のトラブルも保護者の関係が良好であれば、それほどこじれることもないだろう。

10月にあった懇談会にたくさん保護者に参加してもらうために、週末の家庭学習情報で

「明日は参観会、懇談会があります。懇談会では、子供たちの様子や家庭学習で役立つ情報をお話します。たくさんさんの参加をお待ちしています。」と配信した。26人中15人の保護者に参加した。懇談会では「学力づくりで連携」できるように、下のよう資料を用意した。

懇談会冒頭の学年主任からの話は、2年生の他クラスの保護者も一緒に聞いてもらった。学年の半数の保護者に、対面で伝えることができた。

#### 学級懇談会資料

##### 1 学年主任より(15分)

楽しく学校生活を送るためには、人間関係が良好なのと同じくらい「授業がよくわかる」ことが大切だと思います。それは、学校生活の中で授業の時間がとても長いからです。子どもたちがよく分かるようにいろいろ工夫して指導していますが、学校だけでは十分に届かないところもあります。御家庭でのサポートがあると、お子さんにとってこんなに頼もしく幸せなことはないと思います。御家庭でできるサポートについてお話します。

家庭学習は、自分で学習を進める練習の場でもあります。集中できる環境で20分程度取り組めると良いと考えます。2年生では、宿題をやったことないことを避けるために(保護者が承知している場合のみ)学校で宿題をすることを認めています。

御家庭でできるサポートについて  
・できる範囲で学習の様子を見てや

り、褒めてあげる。

・テストの結果を褒めるより、取り組みの過程を褒める。(百点で御褒美をやめる。)

「テスト勉強を頑張っていたね。テスト直しをしっかりとやったね。」という姿勢を褒める。

読解力をつけるには

すらすら音読できることが必要です。ただたどしい音読では、内容を理解することはできません。すらすら読めない子には、教科書の文に言葉ごとに区切りの線を書いてあげるととても読みやすくなります。(2年生の後半から分かち書きがなくなり、教材文が長くなります。)

語彙を豊かにするには、親子の会話、体験だと言われています。読み聞かせは、語彙を増やすだけでなく、本好きな子にする有効な方法です。

漢字を覚えるには

まずは、読めることが大切です。

教科書の漢字が読めなければふりがなを書いてあげましょう。読めるようになったらふりがなを消します。「読み上げ漢字」で多くの言葉に触れ、読めるようにしましょう。書きについて、漢字を分解してつぶやきながら書く方法がおすすめです。「立かいて、木かいて、見るかいて親しむ」のようにつぶやきます。

3年1学期と4年1学期の新出漢字が6年間で最も多く、漢字が覚えられない子が多くなります。2年生までの漢字240字（1年80字、2年160字）をしっかり覚えていない子は、3年生の1学期の漢字で大変苦労します。それは、これまで学習した漢字を組み合わせた漢字が多く出てくるからです。（例えば、言十寺II詩）2年生のうちにできることは、240字の漢字をしっかり覚えることです。テストのお知らせや「こそテスト」を有効に活用してもらえたらと思います。

計算について

かけ算の学習が始まりました。2とびの数、5とびの数がすらすら言えなければ、九九を唱えるのは難しいです。5、2、3、4、6、7、8、9、1の段の順に12月までかけて九九の学習をします。6789の段は苦戦する子が多いです。計算カードでの練習をお願いします。

たし算、引き算は、50ます計算が3分以内でできるとよいです。計算が速い子は、百ます計算で5分以内を目指しましょう。宿題の「国語・算数プリント」の計算問題10問がいつでも確実にできれば、計算の力が十分になっていると言えます。

### ③親子学習会

前任校で親子学習会を実施した。読み書きで困っている子どもに担任が参加を促し、家庭での具体的なサポート方法を親子で学ぶ会である。対象は1〜3年生で、ひらがな特殊音節のルールなどを親子で確認した。

学習会に参加した保護者の感想

- ・どこが苦手なのか、どう教えたらいいのか、理解できました。本の読み聞かせで語彙を増やすことの大事さもわかりました。
- ・プリントを配布していただき、とても助かりました。家でも繰り返し学習しています。ありがとうございました。

・図書館にて本を借りるようになり、音読が楽しくなってきた感じがします。学習会をやることによって親も子も意識が変わったように感じるので受けて良かったです。

今年度の6月に、学習について相談があったA君に親子学習会を行った。夏休みに家庭で学習のサポートをしてもらった結果、A君は9月にはひらがな、かたかなの50音表のタイムが7月よりも大きく伸びた。

今後も保護者と連携した学力づくりの取り組みを続けていきたい。

はじめに

今年度は総合専科として、3年生から6年生の約20クラスを担当している。1時間は専科が担当し、もう1時間は担任がしている。それぞれが別のことをしているわけではない。専科が立てた年間計画に沿って、各担任と連携しながら進めていく。このようなことは県内でも珍しい。校内でも初めての取り組みである。その背景には、国語や算数の授業の参加率が低いことや総合的な学習の時間が他教科の補充、ただの発表会として終わっているなど、本来の目的とはずれてしまっているからである。

総合的な学習の時間とは？

そもそも、総合とはどんな教科なのだろうか。学習指導要領には「教科の枠を超えて児童生徒が自ら課題を見つけ、情報を集め、考え、表現する探究的な学習を通じて、課題解決力や自己の生き方を考える力を育む教育活動」と書かれている。簡単に言え

ば「総合＝やりたいことをやりたいだけやれる時間」と思っている。これが「探究」である。今年度、子どもたちから出た解決したい課題は次の通りである。

- ・ 町の特産物を広めたい（三年）
- ・ 地域の環境を改善したい（四年）
- ・ 地域の困っている人を助けたい（五年）
- ・ 学校の未来をよりよくしたい（六年）

ここで疑問に思う先生もいるのではないだろうか。「そんな課題は違憲として急には出てこない」「やりたいことは一人ひとり違うから無理があるのではないか」と。その通りである。勝手に課題を見つけることはできない。見つけたとしてバラバラである。子どもたちが、普段、当たり前のように過ごしている学校・家庭・地域の中での課題をいかに見つけさせるか、解決に向かっていけるかは教師にかかっている。わたしは、各学年が「やりたい！」「挑戦してみたい！」と思ってもらえるようにあらゆる時間を使って準備をしている。

時間がないから・・・

4月から始業式までに取り組んだのは、とにかく「出会う」ことだ。今まで閉鎖的かつ消極的な総合を、開放的かつ積極的にすることで、開かれた学校へのきっかけづくりや地域とのかかわりが生まれると考えた。まずは、ベテランの先生、四役の先生方に話を聞いた。その後、教育委員会・役場に出向き意見交流を行った。また、昔から住んでいる地域の方や老舗の店舗、企業などを見つけたらすぐに出向き、話を聞いた。課題となりそうなきっかけをつかむために、準備に時間をかけた。農業の後継者問題、安全上の問題、地域からの疎外感、人口は増加に対して収入の減少など、課題を多く見つけることができた。これらをもとに、最初の授業を構成した。だからこそ、子どもたちが「やりたい！」と思えるようになってきたのである。

「時間がないからやりません」という人もいれば「時間がないからやります」という人もいるだろう。わたしは、どちらかというと後者である。特に、今年度は専科ということもあり、時間は限られている。

だからこそ、一時間は無駄にはできない。そのために、準備は時間のある限り費やす。もちろん、難しい場合もあるが、できるだけ時間をかけたいと思っている。

### 総合的な学習の時間で学力のきっかけ

一時間目に大切にしたのは、教師からの一方的な課題ではなく、子どもたち自身が、課題として捉えられるかどうかである。興味をもってくれる子もいれば、なんとなく、雰囲気でも話を聞く子もいる。もちろん、聞きたくない子や離席する子もいる。しかしながら「課題に対して、取り組みたいこと、やってみたいことはありますか」と聞くとはとどの子どもたちが何かしらの反応や考えをくれる。

そこで「やりたいことを実現するために必要なことは何だろう。例えば、募金活動をしたという場合、どうやって実現したらよいのだろうか。」と聞いた。「先生にいう。校長先生にいう。町長さんに伝える。」などのつぶやきが聞こえてきた。すかさず「みんなが校長先生や町長さんだったとしましょう。許可をもらえる人はどんな人で

すか」と尋ねました。

- ・募金の意味を伝えられる
- ・はきはきと発表できる人
- ・どんな使い道があるのか説明できる

など「伝える場面」のみを浮かべていた。

「頭に思いうかべてください。募金の意味や使い道をはきはきと伝えました。しかし、結果はだめでした。なぜでしょうか。」と問い返しながら日頃の行い、生活態度に目を向けさせていきます。「実は、その人は挨拶もしない。授業は聞いたふりをしている。言葉づかいが荒い。仲間への思いやりがない。普段の態度がよくない。ということが原因だったそうです。」と伝え、今の自分やクラスの状況を振り返らせました。

最後には「やりたいことは応援します。ただ、応援される人でなければ、応援はされません。みんなは、プロではありません。うまくも話せないでしょう。みんなの提案を聞く人たちは、みんなが緊張して、うまくできないことぐらいわかっています。大切なことは一生懸命やっているかどうかです。それは日頃の態度を見ればわかります。感じたことを教えてください。」と授業を終

えました。

見える学力よりも見えない学力を意識した授業を行うことで、見える学力につながる場面をつくることができます。実際に総合では「提案文を書きたいので、国語の教科書を参考にしたいです」「社会の資料集を見てもいいですか」「グラフを書きたいので、理科ノート見たい？」など総合の時間に他教科の教科書を使う場面が多くみられる。また、総合で生き生きと提案発表したクラスでは、次の日に国語の研究授業が行われた。そのときに、普段はぼそぼそ声の子がはきはきと話したり、グループ活動を積極的に取り組んだりと変化が見られた。担任からも「昨日の提案発表がうまくいったことがきっかけで調子がいいみたいです」というコメントももらった。

### おわりに

国語や算数など各教科で培った力を発揮するのが総合的な学習の時間。この考えを逆転することが総合のスタートではないかと考えている。先生方の考えも教えていただければ幸いです。

## あらゆる時間を活用した学力づくりの工夫

～すきま時間はつくるもの～

加印 いろえんぴつ 岸本 ひとみ

### 学級担任制の長所

教師の仕事がブラックだと騒がれ始めて以来、いろいろ新しいシステムを試行錯誤している学校が出てきました。午前中5時間で会議の時間を確保したり、学級担任制ではなくチーム担任制を取り入れたり……。どのシステムにも、一長一短あって、ベストはどれ、とは決めかねますが、長く日本の公教育を支えてきたのは、小学校の学級担任制です。

特に、学力研実践のひとつの柱である、さかのぼり指導では、チーム担任制では限界があります。担任するクラスの弱点を、年度当初につかみ、人間関係や発達段階にも配慮しつつ、できるだけ早期にさかのぼり指導を始めます。その中で、「自分もできる」という自己肯定感をはぐくむことができます。

また、1学期は、さかのぼり指導中心に

弱点補強を進め、2学期は本格的な全員参加の授業づくりにシフトして、3学期はそれまでに身につけた力を活用して、子どもが先生役になる授業を展開したり、いわゆる「探究的な学習課題」にチャレンジしたりもできるようになるものです。

それができるのは、学級担任制だからこそ、でしょう。

さかのぼり指導を授業に組み込んでしまっ

もうひとつ、学級担任制でなければ、なかなかできないことがあります。それは、すき間時間の活用です。すき間時間という言葉はあまり使われるものではありませんが、全員の課題が早く終わってしまつて、5分ぐらい時間が生まれることがあります。それをすき間時間と呼んでいます。

図工の作品が早く仕上がった、理科ノートが全員提出できた、漢字テストが終わっ

てしまった、などなど。いろいろな教科ですき間時間はあります。

学力研では、その、5分を活かして基礎固めをしていきます。というよりも、その5分を最初から授業の中に組み込んで、組み立てていくのです。典型的なのはこんな時間配分です。

△2学期の算数 1年生▽

○チャイムと同時に挨拶

○読み上げ計算 1分×2人交代で5分

○その日の課題 30分

○習熟の時間 10分

○チャイムと同時に挨拶

この読み上げ計算の時間が、中学年では加減乗のマス計算になり、高学年では約分100マスなどになるわけです。

子どもたちも慣れたもので、毎日授業開始5分はこれに充てているので、準備の時にはちゃんとカードを出しています。また、「昨日の自分に勝つ!」と、休み時間に練習をしている猛者もいます。

1年生でできるのですから、上の学年では習慣として設定していくことは、それほど難しくないでしょう。担任が、どこに着目するかで、設定できるかどうかが決まっています。2年生からは、9月から算数の時間の最初には、「九九の歌」が聞こえていました。

### すき間時間を活かす(つくる)

だいたい金曜日には、5時間か6時間授業がある中で、1時間のうち10分程度のすき間時間ができるように、計画を立てています。教科も、社会科、学級会、図工など、すき間時間の生み出せそうなものを、必ず入れるようにしています。

10分あれば、各種アンケートに答えたり、生活指導に充てたりできます。週末に設定するのは、その週の残課題がはっきりして、翌週に持ち越すのが難しいことが多いからです。金曜日に、一区切りして週末を迎えないと、よけいに問題がこじれてしまうことが多いです。

また、学級担任制だと、社会科と算数を

半分ずつで、45分の1単位時間とすることができません。他の教科の残課題を次の時間に回して、残り時間でもうひとつの教科を進めるといことです。これも、すき間時間を生み出す大切な工夫と言えます。

そうして生み出した時間を活用して、漢字の思い出しテストをしたり、音読会の練習をしたり、基礎計算大会を企画したりしています。

### 子どもたちの声(保護者も)

子どもたちも、何となくこんなシステムを取ることに良さがついてくると、コメントをくれることがあります。

◆先生の授業は、休むとか休憩とかいうことがなくて、45分間めいっぱい考えたり、計算したりしないといけないので、けっこう厳しいと思います。前の先生の時は、早く課題が終わったら、休み時間とかにしてくれてたけど、そういうことが全然ない！おかげで、集中することができるようになったかも。

◆兄に聞いてたけど、これほどとは思いませんでした。算数の時間に、漢字ミニテストが入っていたり、体育の時間に国語の音読練習を体育館でしたり、教え上げればきりがないぐらい、びっくりすることが多かったです。親に言つと「密度が濃いつてこ」とやん。」と、笑っていました。

◆短時間に集中して、いろいろなことにチャレンジできるようになってきたと思います。だからだとテレビを見ながら宿題をしていたけれど、切り替えが早くなって、生活にメリハリが出てきました。中学校に向けて、とてもよかったです喜んでいきます。

高学年になると、中学校での生活が気になるように、短時間に少ずついろいろなことをすると、集中力をつけることになるのも納得してもらえようです。何より、すき間時間に自分がこなした課題の量を、月ごとや学期ごとに、目に見える形でファイリングしたものをバサッと渡されるので、その量に驚き、自信を持つことにつながります。

## 「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

ります。その「間」も子どもにとっては思考の足場となるのです。子どもたちと同じくあげた授業を「見える化」させてくれるものが黒板です。

■黒板とICTの役割を決める  
子どもたちにとっては……

にできます。失敗してもすぐにやり直しが  
きくというのもポイントです。

どちらにも柔軟に活用できることを求められていきます。しかし、板書が苦手な人にとっては、またはICTが苦手な人にとっては、どちらにも柔軟に使うというのは負担に感じられてしまっているのです。だからこそ、それぞれの良さを整理して、板書計画を立てるときに、教材研究している時に、どちらがより子どもたちにとって「力がつくのか」、伸びるのか、という視点で考えてみませんか。

### ■ICTの良さ

全員の見えを即時に共有できることです。授業で学んだこと、成果物を蓄積でき、いつでも見ることができます。一言で言えば、「便利」。資料の拡大や縮小もあっという間

### ■ICTと比較する上で

見えてくる板書の良さ

板書で大事にしたいこと、それは「ライブ感」です。今の学級だからこそ、その場でできあがる板書を意識しましょう。タブレット端末導入後は、学級全員の考えをすべに見ることができて、誰がどのような考え方をしているのかを、知ることができるようになりました。ただし、タブレット端末で共有すべき場面と、直接会話して考えた方がよい場面があると考えます。また、共有されたものを読んでいるからと言って、考えが深まっているかは別問題だと考えます。

子どもなりに考えながら話しているその時間も、子どもにとっては学びの場となる

### ■ノートと板書

ICTが導入された今、昭和や平和の前半まで、広く実践されていた、板書を先生と同じタイミング、同じスピードで子どもたちがノートに写すことが改めて見直されています。

参考文献(シ)読解力 新井紀子  
全員が授業に参加できるようにするために、ノートを使って授業をしています。ノートを書くことだけが目的ではありません。

聞く力  
読解力

板書を視写するその過程で大事にしたい力です。指示通り書くことが出来るようにするために、「聞く」ことができているかが欠かせません。ただ「めあて」を写すという作業にするのではなく、抽象語などを理解する場にもなっているのです。



## 天気にも左右される単元の授業の組み立て方

天気にも左右される単元を扱うとき

三年理科の次の単元は「こん虫のかんさつ」なのだが、その次の単元の「太陽とかげ」から入ることにした。

「この学習は、太陽が出てないとできません。もし、雨や曇りで太陽が出てない時は、戻って、こん虫のかんさつの学習をします。」

と、子どもたちに説明すると、なるほどと納得していた。

教科書を音読する時間を必ず取る

「太陽とかげ」（東京書籍）の最初のページを連れ読みした。

「かげつなぎをやってみよう。」と書かれている。「かげについて知っていることをかこう。」ともあり、「思い出そう 生活科 かげで形をつくって遊んだことはあるかな。」とも書いている。

「かげで形をつくって遊んだことがある

人？」

と聞くと、多くの手が挙がる。

「かげつなぎをしたことがある人？」

では、数人しか手が挙がらない。

「かげふみをしたことがある人？」

では、ほとんどの子が手を挙げていた。

単元名にこだわらせる

ノートの新しいページを開かせ、日付や天気、温度予想後には温度を書かせ、単元名を書かせる時に、

「太陽、漢字習っていますか。」

既習済みだった。

「太陽のたいをこう書いてはいけません。」

と言って、「大」と書いた。

「点がないと、訓読みでは？」 ・大きい。

「点があると」 ・太い。

「点をこんなところにつけちゃうと」

と言って、「犬」の字も書いて、笑いを取る。

知ってることの共有で、子どもたちの内部情報を蓄積させる

単元名を書かせた後、「かげについて知っていること十かげ問題」を板書。

出席番号で、例を出させたが、知っていることは言えても、かげ問題を作るのは難しいようだ。（知っていること自体もなかなか思いつかない子が何人もいた。）

【1組】①かげは黒い。

②かげは夕方のみ。

③かげはいつ出てくるか。

【2組】①光のはんしやでできる。

②かげは黒い。

③かげは太陽が雲でかくれるとどうなるか。

【3組】①かげは太陽が出てるときにあら

われる。

②かげは太陽の光か人とかに当たってできる。

③手をふれないでかげで手をつなぐには？

【4組】①かげをやると自分が大きくなる

②かげは黒色。

③かげはなんで時間によって向きが変わるのか。

「かげについて知っていること十かげ問題」で板書されたものを4クラスのものからピックアップして紹介する。

- ① いろんなあそびができる。
- ② かげは、形をつくれる。
- ③ かげは太陽のはんたいに出来る。
- ④ 体の向きをかえても、かげは同じいち。
- ⑤ かげは、午前と午後など、時間でちがう。
- ⑥ かげは、「日かげ」ともよぶ。
- ⑦ かげは電気だったら、うつりにくい。
- ⑧ 物の色によってかげの色が変わる。
- ⑨ ガラスのかげはできない。(↑できるかできないか検討。)
- ⑩ かげはじぶんと同じうごきをする。
- ⑪ かげはいろいろな形がある。
- ⑫ たいようが出てないときはかげがでない。
- ⑬ かげはついてくる。
- ⑭ 夜は、かげができない。(↑できないかできるかを検討。)
- ⑮ かげにはいるとすずしい。(↑温度を測って確かめることができる。)
- ⑯ きたいにはほとんどかげはない。

- ⑰ ⑰かげは、晴れている日にできる。
- ⑱ 太陽が動くとかげも動く。
- ⑲ 「おいているもの」のうしろにできる。
- ⑳ かげは、うすいときとこいときがある。(→どんなときにかを検討。)

### 太陽が出ているときは外で実験(観察)

三年理科「太陽とかげ」の第二時。  
四クラスある内、3クラスはしっかりと太陽が出ていた。

教室で、今日やることを音読した後、ノートを田の字に四等分させた。

左上が「①かげつなぎのやり方」、右上が「②高いところから見たかげ」、左下が「③かげはどんなところで見えるか」、右下が「④かげふみ遊びをしてみて。」である。

②は、教室(3階)の窓から運動場を見させて書かせた。(三、四分ぐらい)

どの項目も、文でも絵でもいいと告げている。(あとで、絵だけの場合は、その絵の説明を文で書くように言った。)

遮光プレートとノートと鉛筆を持たせ、運動場に行かせた。

①と③を書かせている間に、私はかげふみ遊び用のコートを持て描く。

しばらくしてから集合をかけ、鬼を班交代にして、かげふみ遊びをしていった。「用意スタート。10、9、8、…、1、0。何人かげを踏んだか班で合計して。」

班は通常なら四人だが、欠席などで二人や三人のところには、私も鬼になり、カウントしながら、かげを踏みに行った。

かげふみ遊びを数回続けると、気付く子は影が踏まれない場所に立つようになっていく。(その気付きを発表されるのを内心、楽しみしていた。)

全班が終わったら、残り時間で、ノートを埋まるように言いつた。

その後、遮光プレートやノートを班で集めさせて、終了。

### 実験結果の発表(天気関係なく)

三年理科「太陽とかげ」の第三時は、外でかげの観察をした結果の発表となる。

ただ、ノートをまだ書き切れていない子がほとんどなので、完成した子から、私が選んだものを板書させていった。

### 【①かげつなぎのやり方】

①前とうしろにわかれてするといろんなところをつながる。

②かげの一番上に立つとかげつなぎができる。

③前と後ろであけて、手をのばすときできた。

④相手より一歩前に出る。

⑤友だちの体のうしろに手をのばしたら、つなげる。

⑥だんさをだせば、かげはつなげれる。

⑦人のかげの、あたまをふめばできる。

※ 実際には、かげつなぎは簡単にできるのだが、それを文章で表現するのは難しいようだ。

【②高いところから見たかげ】

① 12時にちかい11時は、ましたらへんにできる。

② 水にもかげができる。

③ いろいろなかげが本物に見える。

④ かげはぜんぶおなじほうこう。

⑤ かげは、もとの形と同じ形をしている。

⑥ サッカーゴールのいとが細く見える。

⑦ かげがちいさいと、もつとくろくみえる。

⑧ 真下にうつっているかげもある。

⑨ 葉のような小さいかげは見えない。

⑩ かげとかげをあわせたらちよつとこくなる。

※あるクラスの午後の授業で、午前の時に

見たかげの向きと今は違うどうかを予想させてから、カーテンを開けて窓の外を見させた。見事、向きが変わっていた。

【③かげはどこなところまでできるか】

① 物や人にかげができる。

② 日光をさえぎるもの、うしろがわにできる。

③ かげは、太陽の下ができやすい。

④ 太陽がかくれていないときにかげはできる。

⑤ 太陽の光をさえぎる物のうらにできる。(とうめいな物以外)

⑥ 太陽が出ている時にできる。

⑦ 太陽の反たいに、かげはできる。

⑧ 正午の時、太陽が上にある。

※教科書のまとは「かげは、日光(太陽の光)をさえぎる物があると、太陽の反対がわにできます。」だが、それ以上のことを学べている。

【④かげふみ遊びをしてみよう】

① はっしはふまれにくいけど、まん中はふまれやすい。

② おににかげをふまれないようにかげが大きい場所と小さい場所をさがした。

③ ジャンプしてもやられる。

④ くふうは、コートから自分のかげを出すこと。

⑤ かげは、物と同じ動きをするからふみにくい。

⑥ おにごっこよりもむずかしい。

※半数ぐらいの子は、④のことに気付いていた。

外に出てみたが太陽が隠れてしまったとき

第二時の実験(観察)のために、運動場へ子どもたちを出させたものの、太陽が雲に隠れて、かげができなくなったクラスがあった。

今更、教室に戻って、他のことを授業するのは、戻る時間も無駄だし、子どもたちが集中して授業を受けられるとも思えない。みなさんなら、こんなとき、どうするだろうか。

私は授業はあきらめて、集団遊びをさせることにした。(担任ではないが。)

やったのは、ひまわり鬼。(一応、ひまわりの栽培を授業でしたので。)

やってみると、今の子どもたちは、集団遊びをこつこととして遊ぶのに慣れてないことに気付けた。

## リレー連載 「来年度の全国大会講演者新井紀子さんについて」

### 「日本はアクティブラーニング先進国」

学力研究委員会 深沢 英雄

#### 一、新井紀子さんの本との出会い

私が初めて新井さんの名前を知ったのは、「AI VS 教科書が読めない子どもたち」を読んだことです。2018年2月に出版されました。表紙が白でした。次の年、2019年に赤の本「AI」に負けない子どもを育てる」が出されました。

その頃は、「アクティブラーニング」という授業方法の言葉が席巻していました

「アクティブラーニングって言うけれど、日本の小学校ではずっとやってきたこと。何をいまさら言っているのだ。」とモヤモヤした思いがありました。

新井さんの本の中に、『日本はアクティブラーニング先進国 日本人の多くがなぜか「日本の公立の小中学校」というところでは、先生が生徒に知識を伝達する一方的な授業をしている」という誤解をしています。事実はそのようではありません。日本の小学校は世界一生徒の

意見を聞き、班活動(グループ学習)をするこ

とで知られています。近年、東南アジアや欧米の学校でも、グループ学習が活発に行われていますが、実はそもそもモデルが日本だということが多くあります。日本の学力があまりに高いので世界各国の教育関係者が1980年90年代に盛んに日本に視察に来て、班活動に注目したのです。現在、それが「アクティブラーニング」という名前で逆輸入されていますが、日本の学校、特に小学校はもとも欧米の学校に比べてアクティブだったのです。そして今、日本の「研究授業」が世界から注目を集めています」とありました。

#### 二、悪しき一斉授業？

新井さんの本を読んだころ、「一斉授業から協同的学びへの転換である。途上国を除けば、黒板を背にして教卓を中心に生徒が個々に前を向いて教師の説明と発問を受け、板書をノートにうつす一斉授業の様式は今や、博

物館“に入っている。”「これからの時代は、集団ベースの一斉指導ではなく、個人の個性に最適化された学習が教育の主流になっていくでしょう。私たちが提供するタブレットサービス。それぞれの子どもが各自のペースで学習が進められ、自分の苦手をしっかりカバーしてもらえ。そして、その過程で、社会に生きるために必要な論理的思考力なども、個人最適化された形で身につけていく。それこそが私たちの目指す教育の姿なのです。」という論調が広がっていました。

それに対して新井さんは、本の中で『一斉授業はやめて、それぞれの進度でデジタル教科書で進めばいい』というご意見があるが、それは「自力で読める」が前提になる。自力で読めれば、媒体は紙だろうがデジタルだろうが、何でもいんだけれども、そもそも「読めない(教科書や資料を読解できない)」から格差がついているので。「読めない」を解決する上でドリルやタブレットはほぼ無力なわけです。結局、時間ごとに教科書を中心にテーマを据えて、学びのコミュニティの中で一斉授業の中で学んでいくしかないと思うのよね、小学校は。』この言葉に勇気をもらいました。

## 学力研 第19期 先生のための学校・二回目 報告

荒井賢一（大阪教育サークルはやし代表）

第19期の学力研・先生のための学校は、連続講座です。今回は、二回目の報告です。

【10月11日（土）国語科「読む力、書く力 国語の基礎力をどう育成していくか」】

### 〔講演1〕鈴木基仄

①読みが苦手な子への指導

語彙数な少なく、聞いたことそのまま書けないような子を卒業までには、自分の考えを表現できるようにさせたい。1年生のひらがなの特殊音節（促音、長音、拗音、拗長音）は1年間くり返し復習すべき。すらすら読めなければ、内容理解（読解）はできない。多層指導モデルMIMも有効。

②漢字指導

リズム漢字、読み上げ漢字を。コンセプトは網羅していてコンパクト。それゆえ、すぐ式ではなく、自分の考えを言葉でノートに書くことが、大切。

③書く（作文）指導

経験不足・定着不足をなくすために、ハードルを下げて取り組みやすいものを日常的に指導していく。4行作文↓5行作文↓はがき作文。

### （参加者の感想）

言語を獲得するうえで「書く」ことが最も難しいこと。だから根気強く、くり返し、さかのぼり指導していかないといけない。その子がなぜ書けないのか、根本の問題を解決しないと、高学年になったからといって、できるようになるものではない。

### 〔講演2〕久保齋

『一斉授業の復権』を書いてから20年経つが、そこを突き抜けた実践が出てきていない。

基本的な人権としての読み書き計算を保障していくことが大事。

音読は、その子の脳そのものを鍛える。それゆえ、全ての教科で音読する。

子どもの音読を聴くと、その子の理解力が判定できる。

しゃべり言葉ではない学習言語を身近なものにしていく。意味世界にくつついた言語をつけてやる。読み聞かせも、子どもの理解度を看取りながらする。

漢字指導は、文字指導の側面と、抽象的思考を育てる側面がある。

丸覚えさせるだけでなく、分析（分解）、統合させていく。

### （参加者の感想）

「読み書き計算」は人権の1つ。上手になる音読ではなく脳をきたえるためのもの。音なのか意味まで理解しているのか。プロの教師としての心構えを学びました。ただ読ませるのではなく、意味理解できる音読をしようとして教師が意識するだけで、子どもたちの力を伸ばすことができると思いました。「丸覚え」↓「分析・統合」する。指導は同じでも意味がちがうとともに、積み重ねるとき子どもたちは力がかなりつくなあと思いました。実践あるのみだと感じました。

### ◇学力研最新情報

#### ●息苦しさのおおもと

みなさんは、学校現場が息苦しいと感じられたことはないですか。学習指導要領、週案、課題教育などなど、新しい課題は山ほど降ってくるのに、これまでの指導計画のどこに詰め込んだらいいのだ！という、怒りや悲鳴が上がっているのが、今の学校です。

管理職が悪い、教育委員会だ、保護者の過大な要求だ、と世間はかまびすしいですが、本当の原因はいったい何だとお考えでしょうか。

●**指導と評価が教師の手元にな**  
変な話ですが、指導内容や方法を決めるのは、現場にいる私たち教員ではないことが普通になってしまっていますか。指導要領がいつの間にか厳守しなければならぬものになってしまい、内容だけでなく方法まで細かく規定されています。

また、評価するのが教員ではな

いこともありませんか。業者テストだったり、教育委員会が発行する標準テストだったりするのがそれです。確かに、一定の評価基準は必要ですが、それが「規準（目標に対するよりどころ）」になっ

てしまっただけではないのです。自分が教えたことに対して、指導した教員自身が評価することができないのでは、局面局面で、子どもの伸びを評価することができません。褒めて育てることが、学校現場ではできにくくなっていることが、息苦しさの最大の要因だと考えます。

#### ●**せめて学力研実践の中だけでも**

学力研の実践の中では、努力すれば伸びることを評価できることが多いです。学力の基礎がきたえられることを評価するのは、当然のことです。子どもが伸びることがわかっているからこそ、自信をもって指導にあたることができます。ぜひ、いっしょに実践して、この閉塞感を吹き飛ばしましょう。

### ◇事務局だより 岡本 美穂

#### ■先生のための学校

経験者、

もう一度学びに変える時間

11月 8日(土)国語科

「学力の要」読解力を育てる」

講演 11:30から14:15

講師 荒井賢一

今の学校の市販テストでは読解力を測ることはできない。文法の理解度が子どもたちの読解力育成の要であると主張

各学年での言語項目をしっかりと押さえる国語学習のあり方を熱く語る。一字遣えば全く意味が違う日本語指導の面白さを学んでもらおう。

著書 同音異義語頭脳プリント

(清風堂出版)など

講演 21:4:20から15:05

講師 久保 齋 読解力の育成を小

学校教育の最大の課題と考え、なぜ読解力がつかないかを分析市販テストで100点を取らせる。

「逐語的読解指導」「ウォーリーを探せ」などを考案、さらに真の読解力育成をめざして、「問い直す力」「読み直す力の育成、読解力指導から読解記憶への道を切り開く研究を語る。

15:10から15:55

講演1より議論

16:00から16:45

困ったことなんでも相談会

<https://www.kokuchapro.co>

<m/event/5c9a95b52da21b>

<a9f0e4610f278a4c4b/>

1月7日(土)理科

「低学年理科的課題から高学年理科までを展望」

<https://www.kokuchapro.co>

<m/event/c9726e3138dc1a>

<5f3a2eb1b5642aa27b/>

2月14日(土)社会科

「低学年社会科課題から3,4,5,6年それぞれの社会科へ」

<https://www.kokuchapro.co>

<m/event/4ab37be8226c99>

<c1019a18b1089c9239/>

# 学力研カレンダー

《各地のサークル・部会 2025年 11月 例会、イベント》



どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

## 11/

22 (土)	みなみ学力研	9時45分~12時	阿倍野区民センター	図書 nobu580701@yahoo.co.jp
28 (金)	春日井学力研	18時半~	レディヤン春日井(JR勝川駅)	山口 080-6904-1697
28 (金)	伊丹学力研	18時半~	伊丹市役所横サイゼリア	前田 090-9715-3830
28 (金)	いろえんぴつ (加印)	18時半~	なんなん広場会議室	岸本 090-9117-6330
29 (土)	大阪教育サークルはやし	午後	エルおおさか	荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡下さい。

- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

## 《全国キャラバン等 今後の予定》

### ○ 学力研・先生のための学校【全6回】

9月13日(土) 13時半~16時45分【済】 10月11日(土) 13時半~16時45分【済】  
11月 8日(土) 13時半~16時45分

2025年

1月17日(土) 13時半~16時45分 2月14日(土) 13時半~16時45分

### ○ 1年生講座 第9回 11月22日(土) オンライン

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

職場の人間関係を「社会関係資本」と呼び、関係の改善がやがて仕事の結果の改善につながるということを学びました。何かできることは無いかと考え、ミルで豆から挽いたコーヒーを夕方の職員室で振る舞ってみました。会話が盛り上がり面白かったです。他にもできることを探中です。(堀井)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一	E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp
李 詩愛	E-mail iwamotoshie@gmail.com
堀井 克也	E-mail katsuya4k1h9@gmail.com
加藤 英介	E-mail hgtrd533@yahoo.co.jp